

特集企画

陸上競技のタレントトランスファー
ージュニア競技者育成の新たな方向性を求めてー

序 文

以前学習したことが後の学習に与える影響を学習の転移 (transfer of learning) と言い、運動学習の転移、運動技能の転移などについても古くから多くの研究が行われている。この学習の転移を背景に、スポーツ競技や種目を変えることによってエリート競技者の可能性をさらに引き出そうとするのがタレントトランスファーと呼ばれるものである。

2012年ロンドンオリンピックに向け開催国イギリスはさまざまな強化策を打ち出したが、その一つに「スポーツ・ジャイアンツ」と呼ばれる高身長競技者を募ったタレント・トランスファー・プログラムがあった。従来行われてきた種目限定型のタレント発掘策の限界を打破した挑戦であり、実際のオリンピックのボート種目において金メダルを獲得するといった成果を上げ注目された。今日、ジュニアからシニアに至る競技者育成システムのなかにこのタレントトランスファーをいかに組み入れるか、イギリスをはじめいくつかの国でその試みが始まっている。

日本陸上競技連盟のオリンピック、世界選手権代表選手を対象にした調査結果においても、わが国の陸上競技エリート選手も、思いの外、競技間トランスファーや種目間トランスファーを活発に行ってきた経歴が明らかにされた。こうした調査結果を踏まえ日本陸連としても、2020年東京オリンピックあるいはポストオリンピックに向けてのタレントトランスファーについて種々検討を進めている。

ただし、「タレント発掘」や「タレントトランスファー」といったスポーツ現場でもよく使われる用語は、ともすれば成功イメージが先行、誇張される嫌いがあり、ある種の虚像を形成しかねない危うさも同時につきまとう。したがって、とりわけスポーツ政策に無批判に導入することは避けなければならない。そこで本特集では、このタレントトランスファーという古くて新しいテーマをとりあげ、日本陸連の政策展開を念頭に置きつつも、その経緯、実態、方向性、可能性などを多角的、学祭的に議論するものである。その議論の成果が日本陸連の競技者育成計画への参考に供すればと願うものである。

陸上競技研究紀要編集委員会
編集委員長 伊藤静夫

特集企画

陸上競技のタレントトランスファー —ジュニア競技者育成の新たな方向性を求めて—

目次

今、なぜタレントトランスファーなのか・・・・・・・・・・・・・・・・	26
山崎一彦	
タレント発掘・育成のモデルとなる源流の検証と提言・・・・・・・・	29
～スポーツトレーニング学とスポーツ運動学の視点から探る～	
石塚浩	
競技者育成と生涯スポーツの融合モデルを求めて・・・・・・・・	37
—カナダ LTAD 及びオーストラリア FTEM —	
伊藤静夫, 榎本靖士	
日本代表選手はいかに育ってきたか・・・・・・・・・・・・・・・・	47
—日本陸連による代表選手の軌跡調査より—	
渡邊將司	
タレントトランスファーマップという発想・・・・・・・・・・・・・・・・	51
—最適種目選択のためのロードマップ—	
森丘保典	
選手のタレント発掘およびトランスファーへの試み・・・・・・・・	56
桜井智野風, 三宅聡	